

ゴンドラ

No.8

「柏原ぶどう物語」

平成 22 年度春季企画展として、平成 23 年 3 月 26 日から 6 月 19 日まで、「柏原ぶどう物語」を開催しました。ぶどうは柏原の地場産業として有名ですが、ぶどうやワインの歴史、そして柏原とのかかわりなどについては、あまり知られていないようです。また、カタシモワインフード(株)が所蔵するぶどう酒醸造用具一式を、平成 22 年度に柏原市有形民俗文化財に指定しました。そこで、柏原におけるぶどう栽培やぶどう酒醸造の歴史を中心に、柏原とぶどうについて考える企画展を開催したものです。

展示資料は、当館所蔵資料のほか、カタシモワインフードや市民からの借用資料もありました。ぶどう栽培についての記録、収穫道具、ラベル、ぶどう狩りの案内パンフレット、ぶどう酒醸造用具、貯蔵容器、ボトル、ラベルなどが主な展示資料です。

企画展に伴って図録も作製し、図録をご覧いただければ、柏原のぶどうの歴史が理解できるようなものにしました。「柏原ぶどう物語」です。市民からも、これまで知らなかったぶどうのことがよくわかったと好評でした。この企画展や図録が契機となって、新たなぶどう関連資料やぶどうにかかわる情報を市民からいただきたいと思っています。そして、いつの日か、もういちどぶどうをテーマとした企画展を開催したいと考えています。



ポスター



展示風景

企画展のご案内

◎平成 23 年度秋季企画展「大和川の風景」

平成 23 年 9 月 20 日～12 月 11 日

大和川の付け替え工事を中心とした、大和川の歴史についての企画展です。今回は、今に残る旧大和川の風景などについても紹介します。

◎平成 23 年度冬季企画展「ちょっと昔の道具たちーあかりー」

平成 24 年 1 月 7 日～3 月 4 日

例年開催しているちょっと昔の道具についての展示です。

◎平成 23 年度春季企画展「中甚兵衛と中家文書」

平成 24 年 3 月 24 日～6 月 24 日

大和川付け替えの功労者中甚兵衛が残した史料を中心とする中家文書が、平成 22 年度に当館に寄託されました。これらの史料は、近く市指定文化財にする予定です。この中家文書の中から、中甚兵衛にかかわる史料を中心に、みなさんにご覧いただきたいと思います。

※タイトル・期間等は変更になることがありますので、事前にお問い合わせください。

お知らせ

◎史跡高井田横穴特別公開

平成 23 年 10 月 15 日（土） 10:00～15:00 史跡高井田横穴公園

普段は鍵がかかっている横穴を、鍵を開けて公開します。ゴンドラ形の船に乗る人物などの線刻壁画も見ることができます。今回は、いくつかの体験イベントも開催予定です。ぜひ、お越しください。

◎体験教室

12 月上旬にしめなわづくり、来年 2 月上旬にわらざうりづくりを予定しています。定員に限りがありますので、詳しくは歴史資料館までお問い合わせください。

◎刊行物

・『柏原ぶどう物語』

春季企画展に伴う図録。ぶどう・ぶどう酒関連資料の紹介だけでなく、柏原とぶどうとのかかわりを知るための入門書としても最適です。

オールカラー。38 ページ。600 円。

・『赤馬伝説』平成 23 年度夏季企画展展示図録

夏季企画展に伴う展示図録。『日本書紀』にみられる田辺史伯孫の赤馬伝説を、関連する考古資料を交えながら解説しています。

オールカラー。32 ページ。400 円

・『柏原市立歴史資料館館報』23 号

本文 68 ページ、カラー図版 1 ページ。400 円。

企画展を終えて

★平成 22 年度秋季企画展「大和川はどこへ・・・」

平成 22 年 9 月 22 日～12 月 13 日

観覧者数 10,665 人（個人 1,836 人、団体 8,829 人）

★平成 22 年度冬季企画展「ちょっと昔の道具たちーはこぶー」

平成 23 年 1 月 8 日～3 月 6 日

観覧者数 2,149 人

（個人 964 人、団体 1,185 人）

★平成 22 年度春季企画展「柏原ぶどう物語」

平成 23 年 3 月 26 日～6 月 19 日

観覧者数 2,236 人

（個人 1,879 人、団体 357 人）

★平成 23 年度夏季企画展「赤馬伝説」

平成 23 年 7 月 9 日～9 月 4 日



冬期企画展展示風景

文化財講座

当館では、年間テーマを決めて毎月講義や見学会を行う文化財講座を実施しています。今年度までの過去 5 年間のテーマは、「聖武天皇とその時代」「大和川の歴史をたどる」「古墳時代の幕開け」「古墳時代の幕引き」「倭の五王の時代」となります。市民を対象に、定員 60 名で行っていますが、申し込み受け付けから 1～2 日で定員いっぱいになる人気の講座です。多くの方にお断りするのが心苦しい限りです。

夏季企画展や市民歴史大学のテーマとも関連させ、講義や見学会を 12 回。講座生の出席率も高く、みなさん熱心に受講されています。受講生の方々が、各種の行事に参加されたり、新しい入館者を連れてきていただくなどの効果もあるようです。

22 年度の「古墳時代の幕引き」では、柏原、太子町、羽曳野、飛鳥、桜井の終末期古墳を見学する見学会、学芸員による講義、そして市民歴史大学の聴講と、受講生は終末期古墳のおもしろさを堪能していたようです。今後も新しい企画を考えていきたいと思っています。



文殊院東古墳の見学

展示資料の紹介

平成 22 年度夏季企画展「群集墳から火葬墓へ」の開催に伴い、本市安福寺所蔵の夾紵棺を特別に出品していただきました。終末期群集墳をテーマにした展示でしたが、市内に所在するにもかかわらず、ほとんどの市民が見たことのない夾紵棺をみなさんに見学していただこうと、所有者の安福寺にご協力いただき、初めて展示できた資料です。

夾紵棺とは、漆を塗りながら布を貼り重ねてつくられた棺で、7 世紀代の天皇や皇族の棺として使用されたものです。安福寺所蔵品は、長さ 94 cm、幅 47.5 cm、厚さ 3 cm で、1 枚の板のようなものです。絹を 45 枚重ねてつくられたもので、これまで知られている夾紵棺の多くは麻でつくられており、安福寺所蔵品は、確認できる夾紵棺のなかでは最高級のものです。

それでは、この夾紵棺は誰の棺なのでしょう。安福寺の周辺に天皇陵があったとは考えられません。おそらく、いつの時期かにどこから安福寺へ持ち込まれたものなのでしょう。厩戸皇子、すなわち聖徳太子の棺ではないかという説もあります。今後、その謎を解明するのが楽しみです。市内には、このように謎に満ちた文化財がまだまだ残っています。



夾紵棺外面



夾紵棺断面



ーひとことー

ゴンドラ第 8 号をお届けします。博物館・資料館にとっては厳しい時代です。当館でも、館長が学芸員を兼ねるという変則的な体制となりました。なおかつ、もっと多彩な展示や事業を展開するようという指導があり、一人でどこまでできるか心もとないかぎりです。今までもずいぶんがんばってきたつもりなのですが……。また、当館は開館以来入館料は無料となっていますが、有料化を検討するようという指導もあります。本来、博物館はだれもが、いつでも気軽に利用できる施設であるべきで、利益を追求する施設ではないと思うのですが、この考えはまちがっているのでしょうか。みなさんの声を聞かせていただきたいと思います。(Y)

柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日（祝日でも休館）、年末・年始

開館時間 午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分 入館料 無料

〒582-0015 大阪府柏原市高井田 1598-1 TEL 072-976-3430